

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース
A グループ研究 A
校園コード (代表者校園の市費コード)
522031
選定番号
138

代表者	校 園 名 :	大阪市立桜宮中学校
	校園長名 :	向井秀俊
	電 話 :	06-6921-6934
	事務職員名 :	櫛谷 葵
申請者	校 園 名 :	大阪市立桜宮中学校
	職名・名前 :	教諭 田中美恵
	電 話 :	06-6921-6934

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究 (3 年目)
2	研究テーマ	Web国際交流によるグローバル人材の育成(3年目) ～多聴多読活動と小集団国際交流～			
3	研究目的	1. 前年度の国際交流活動の課題を解決し、国際交流の効果を更に高める。 (1) 英語処理速度や語彙力の向上：多聴多読活動 (2) 各生徒の交流機会増加：複数の小集団での国際交流 (3) 国際交流活動の全校展開：一部の活動を他学年や特別支援学級に展開 (4) 教員資質向上：Microsoft Educator オンライン講座受講 (5) C-Netや外部講師による対面式国際交流 2. ESD国際協働学習や異文化学習により、世界の子供達と共にSDGs達成を目指す。 (1) サービスラーニング：途上国支援活動 (2) 海外の学校とのSDGs活動発表会 (3) C-Netや外部講師による異文化や発展途上国に関する学習 (4) 教員資質向上：Microsoft Learn Educator Center オンラインコース受講			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシク 9.5ポイント) <2022年：1 学期> 4 月 ・今の課題や先行研究を確認後、研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討 国際交流先や多読活動経験がある他校との打ち合わせ実施 ・C-Netの異文化理解授業開始(以降毎月継続) ・アメリカ合衆国ワシントン州の日本語学習中の高校生と、ビデオレター交換による言語交換(Language Exchange)式交流活動実施(1回目：上級者のみ対象) 5 月 ・英会話カードゲームによるオールイングリッシュ活動実施(日本語を使わない練習) 6 月 ・AI自動採点(Reading Progress)による音読テスト実施(以降継続、発音改善用) ・アメリカの高校生とビデオレター交流活動実施(2回目：全員対象) ・英会話カードゲーム大会実施(大阪教育大学1回生6名参加) ・文通活動実施(1回目) <2 学期> 9 月 ・習熟度別授業で多読活動開始(以降継続) 10月 ・ニュージーランドの子ども達と小グループ国際交流実施(以降継続) ・文通活動実施(2回目)、文通相手へのビデオレター作成、筆記体練習開始(以降継続) ・文化祭で交流活動について掲示発表 <2023年：3 学期> 1 月 ・Microsoft Learn Educator Center オンライン講習受講 ・アメリカの高校生とビデオレター交流活動実施(3回目：全員対象) 2 月 ・65期生の授業でアメリカのビデオレターを使用(上級者向け) 65期生の授業でReading Progressを使った音読テスト実施 ・外部講師による国際理解教育授業実施(外国の遊び体験交流、Thank You Card作成) ・研究授業・研究発表会実施 ・教員・生徒への事後アンケート実施・分析・結果考察 ・文通活動実施(3回目)：筆記体の手紙を読むことに挑戦(前回は教員がパソコン入力)			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 5 年 2 月 16 日		参加者数	約 11 名
		場所	大阪市立桜宮中学校			
		備考				
6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。				
		【見込まれる成果1】 「教員の資質や指導力の向上」Microsoft Learn Educator Centerオンラインコース受講やその内容の共有により、教員のESDや英語教授法に関する知識並びに指導力の向上が期待される。				
		《検証方法》 4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で平均2.8を目指す。				
		〔検証結果と考察〕 【結果】3.6【考察】本年度はESDに関する研修は受講できなかったが、英語教授法やFlipGridとReading Progressの研修を英語で受講した。特に英語教授法については、昨年度に引き続き、米政府助成金プログラムの奨学生に選ばれ、本年度はテンプル大学ジャパンキャンパス大学院教育学研究科の授業を3学期から英語で受講している。最新の海外の英語教授法について多くのことを学ぶ中、生の英語や異文化に触れる機会を生徒に多く提供することが、語学習得には重要であることを改めて認識することができた。				
		【見込まれる成果2】 「教員の資質や指導力の向上」国際交流活動を通して、教員の外国や異文化に関する知識や、英語力の向上が期待される。				
		《検証方法》 4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で平均2.8を目指す。				
		〔検証結果と考察〕 【結果】4.0【考察】南北アメリカ、ヨーロッパ、中東、アフリカ、アジア、ニュージーランドと、正に世界中の国々と交流をすることで、生徒と共に教員も交流先について多くのことを学んでいる。また、C-Netによる異文化理解の授業や、生徒の交流先の国や地域に関する調べ学習の発表を通し、外国や異文化に関して教わることも多い。12月にクリスマスカードを文通相手に送ることを考えたが、主な交流先にユダヤ教の学校やイスラム教の国があり、急遽異文化理解の授業では、クリスマスと共に、様々な宗教の主要なお祝い・お祭りについて学習し、年明けに新年を祝う交流活動に切り替えた。				
		【見込まれる成果3】 「教員の資質や指導力の向上」国内外の学校との連携活動を通して、教員の指導力向上が期待される。				
		《検証方法》 4段階による教員アンケートを実施し、関連項目で平均2.8を目指す。				
		〔検証結果と考察〕 【結果】4.0【考察】国際交流活動の経験が豊富な交流先の教員から、「お互いの生徒が笑えば成功」、「失敗を恐れない」、「続けたら良くなる」という3つの考えが大切だと教わった。文法や単語の暗記が苦手な生徒も、自ら率先して交流活動に参加し、非常に手の込んだ手紙を作ってきたり、Zoom交流では終了時刻になってもいつまでも別れを惜しんで話し続けている。アメリカの日本語学習者の日本語のスピーチを聞くと、間違いが多くても、感情を込めたビデオレターは気持ちが伝わってくる。本研究を通して、間違いを恐れずに、笑顔で堂々と外国人と英語でコミュニケーションができるスキルを身に付けさせる指導の重要性を実感することができた。				

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上」国際交流や社会貢献活動への参加を通して、生徒が世界的な問題及び異文化に対する理解度・受容度や外国・SDGsに関する関心度を向上することが期待される。</p> <p>《検証方法》 4段階による生徒アンケートを実施し、関連項目で平均2.8を目ざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕 【結果】3.5【考察】3学期の交流相手には、約10年前にロシアに統合（占領）されたウクライナのクリミア地方、更にはハリケーンや地震で被災したニュージーランドやトルコの学校も含まれる。アルゼンチンの交流相手はユダヤ人学校で、ホロコーストの話もし、戦争や災害時の支援など地球規模の問題について考える機会となった。1月に、「Happy New Year」からはじまり、冬休みをどう過ごしたかを説明するビデオレターを作成した。2月にはその学びを活かし、夏休み明けのニュージーランドとのZoom交流や、New Year Cardを書く文通活動を企画したが、状況によってはHappyという言葉が不適切な場合もあるため、相手を気遣った表現を考えるよい機会となった。</p> <p>【見込まれる成果5】 「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上」対面式国際交流活動や英語多読活動への参加を通して、生徒が英語力（4技能）や英語でのコミュニケーションに関する関心度を向上することが期待される。</p> <p>《検証方法》 4段階による生徒アンケートを実施し、関連項目で平均2.8を目ざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕 【結果】3.4【考察】入学当初からC-Netの特別授業で上級者達は通訳係として活躍している。また、2学期からは通常の英語の授業内でもオールイングリッシュの授業を心がけており、スローラーナーのために通訳係に通訳してもらっている。2月の対面式交流では、パキスタン出身の講師が日本語で説明することが難しかったため、通訳係の生徒達が大活躍し、面識がない講師の、パキスタン訛りのクセが強い生の英語に触れ、本格的な通訳体験をする貴重な体験となった。また、英語学習者用の多読書籍を学級図書の一部として教室に置くことで、英語を英語のまま理解できる「英語脳」づくりに貢献している。</p> <p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。 【成果】研究3年目で教員側は交流に慣れてきたとはいえ、本年度は対象が1年生のため、別の苦労があった。入学時にごく一部の生徒を例外として、小学校の語彙や基本文が定着しておらず、はじめは上級者のみで国際交流を行った。多くの言語活動を行いながら、単語練習ノートで語彙力向上に努め、会話テストや音読テストは全員が合格するまで何度も練習し、英会話用カードゲームで日本語を使わずにコミュニケーションを取る特訓もした。はじめは英語力に自信がなく、交流をすることに対して消極的だったが、今では英語が苦手な生徒が積極的に交流をしたいと手を挙げるようになり、彼らの成長ぶりに驚いている。 【課題】1学期から家庭学習に励んできた生徒は、夏休み明けには英検5級合格レベル(8割強)、今では4級合格レベル(7割強)と、順調に新しい教科書が求める英語力がついてきたが、文法やスペルが苦手な生徒が少なくないため、読み書きの活動を今後増やそうと考えている。多読図書については、主に習熟度別授業で使ったり、学級図書として活用したが、通常授業ではまだ導入したのみで、今後本格的に通常授業で使っていこうと考えている。そのため、次年度は、多読学会で知り合った、市内で多読活動の経験が豊富な教員に相談しながら、多読の研究もしっかり進めていきたい。</p> <p>《代表校園長の総評》 この研究支援の様子を3年間通じて見ているが、研究3年目となり指導者の力量が確実にアップしていると感じた。授業を行う対象学年が1年目は2年生、2年目は3年生であった。3年目となる今年度は1年生であるため、海外との交流は非常に難しいだろうと思いつきながら見守ってきた。しかしながら現在の状況は、どの子どもたちも生き生きと積極的に交流を行っている。子どもたちが持っている力に驚くとともに、子どもたちの興味関心を引き出すように指導者が失敗を恐れずチャレンジすれば、英語力的には低い子どもたちでも十分に楽しみながら海外の子どもたちとコミュニケーションが取れるということがよく分かった。公開授業を見た指導主事からも高い評価をいただきうれしく思った。今後もこのような先進的な学びを続け、本校はもちろんのこと全市の子どもたちのために研究の成果を発信させたいと強く思っている。</p>
---	-------	---